

内村麻美さんインタビュー

「タレント活動が高校にはれて、校長室に呼ばれたのですね。」

「まず大きい声で『すいません!』って頭を下げて謝りました。いいかげんにでなくきちんと。そしてそこからライフプランを校長先生に一気に話したんです。自分はこう考えていてこうしたいんだと。そうしたら校長先生は『うちの学校にもこんな生徒がいたんだね』って納得してくれました」

「それまで隠すのは大変だったのでは。」

「剣道部のマネジャーをしていて、顧問の先生にだけは話していました。その先生にはメンタル面を育ててもらいました。剣道の指導を私の状況に合わせて話してくれました。本当に良い先生に出会えました。私は周囲に恵まれている」

「仕事の現場で心がけていることは。」

「明るい現場ですが、どんよりしてしまうこともあるんです。そんな時は自分から明るくするようにします。気を使うけど、気にはしない。13歳の時からこの仕事をしているので、相手一人ひとりの取扱説明書をつくるようになりました。たとえばこの人はここまで言うところかな、とか」

「人間関係で難しいこともありますよね。」

「私はその人の良いところ探しをします。人によつて、きつい言い方をする人もいるし、育ち方もあるし、その時何かあったのかなかと思うようにします」

「とても前向きな性格ですが、昔からですか。」

「以前は素直じゃなかったよく言われていました。すぐに『だって、だって』と言い訳していたんです。仕事をするなかで変わってきました。人間って変わるものだって思います」



どんよりした現場も 私が明るくします



「今のご自身の職業はモデルですが、それともタレントですか。」

「今はタレントです。私のなかでは、モデルはきれいでいいといけなくてお人形さんのイメージ。でもタレントは自分の良いところ悪いところをさらけ出して、笑顔になってもどつ仕事だと思っています」

「新人もどんどん出てくる厳しい世界です。」

「焦る思いはあります。でも誰も持っていないものを自分は持つていて、そこを磨いていけば私は私でいられる。だから大丈夫だと思っています。私だけが持っているものですか?人からもらう愛情を信じて仕事することですかね。高校の先生が言っていた言葉をよく思い出します」

「どんな言葉ですか。」

「無理、できないという言葉は口に出してはいけないと。口に出すと本当にそつたと錯覚してしまうからです。あと、毎朝鏡を見て『お前は今日もきれいだね』って口に出せと言われました。さすがに口には出さないですけど(笑)。鏡を見るたびにそう思うようにしています」

「おいしいものを食べるのが、仕事の前のげんかつぎですね。」

「食べることはものすごく好きです。食べたいものがあるとお昼でも夜でも一人で食べに行きます。あと夜中に目が覚めて、ぐっすりとお酒が飲みたくなることもあるんです。月に3回くらい。そういう時は父を起すこともなく、一人で芋(焼酎)の水割りをつくって飲んでます。自然な流れですね(笑)。父の出身が鹿児島の子島なので、私もお酒は芋焼酎が大好きです」

「剣道の話が出てきましたが、父が剣道をやっていた、兄と弟は全国大会に出たりしていました。私はプレーしていたのは中学校の3年間だけです。父は食事の時に手元に竹刀があるような人ですけど、彼氏を家に連れてきてもうエルカムなんです。私の良いところも悪いところも理解してくれています。高校1年生のときに恋愛でこたえたので、半年間うつみたいになったんです。その時は両親が支えてくれました。でもそばにいてくれたことも、治ってからは気付くことができないんですよ。両親のことは尊敬しています」

「仕事もプライベートもうまく行かないという人にアドバイスをもらえますか。」

「プライベートが充実すると自然にオーラが出てくると思います。両方うまく行かない人は、自分自身を見つめなおして再確認して、一休みしたらどうでしょう」

「これからどんな活動をしたいですか。」

「雑誌のモデルをやってみたいです。10代のころは東京に行けば仕事があると思っていたけど、最近ばかりを大切にしないといけないと思うようになりました。10年後も相変わらずだねって言われたいです」



夜中に起きて 一人で芋焼酎 飲んでます(笑)



うちむら・あさみ タレント。レイ・ワールド所属 1989年生まれ、福岡市出身。現在はKBCテレビ「アサデス」・KBCラジオ「9デカラ」にレギュラー出演。そのほかCMなどで活躍中。自分の性格を分析すると、猫

